



子どもも描くマイ・ドリーム

鳥取ガス株式会社

取締役社長

兄嶋祥悟

政権交代で政官産の無駄遣いが明らかになったが、地方財政はいぜん厳しく、大胆な発想の転換が求められている。変革の時代に、私たちはどんな未来を設計すればよいのだろうか。大企業の誘致が困難な現在、ここは地域復興の原点に立ち「人づくり」から再考する必要がある。

回り道のようにだが、十数年も経てば若者は立派な社会人になる。人的資源が、確かな将来を開くのだ。弊社シヨールームの「サルーテ」では、オーストラリアと鳥取の児童による英会話の交流を始めた。他国の生活文化を知り、幼時から国際感覚をつけようとする試みである。

そこで子どもたちが描く夢が、私にとってもマイ・ドリームとなる。異文化の相互理解が、あらゆる分野で必要とされている。政治やビジネスも国際舞台では、多角的な思考でなければ通用しない。文化こそ、人間の基盤。そのためにも郷土には、もっと「多様性」のある人材が望まれるのである。